

iPad を活用した活動報告書

報告者氏名：井尻滋明

所属：京都市立北総合支援学校

記録日：2012年9月17日

活動内容タイトル：「産業現場等体験実習における iPad の活用」

活動内容の概要：

対象生徒は高等部3年生で、卒業後の進路決定に向けての産業現場等体験実習を10日間行った。これまででもいくつかの企業で実習を重ねてきたが、「自分から質問や報告が言える」「時間を見ながら能率的に作業する」「社員さんとのコミュニケーション」など常に課題として挙げられてきた。また、これらの課題を踏まえ校内のワークで課題に取り組むが、なかなか達成できずにいた。しかし、今回の実習ではiPadを使用し、毎日実習担当教員とその日の振り返りと反省を重ねることで即時的にアドバイスできたことや、中間観察の際に対象生徒の様子をビデオで撮影し保護者にも観てもらうことで家庭ともより連携することができ、対象生徒は課題達成に向けて取り組むことができた。

【対象生徒の情報】

・ 学年

高等部3年生

・ 障害名

知的障害

・ 障害と困難な内容

のんびりとした性格で行動もマイペースでゆっくりしている。そのため、作業についても時間を意識して急いで取り組むことが難しい。言われたことに対しては、素直に受け入れることができるので、定型反復の作業では力を発揮できるが、言われたことだけしかできないため、企業就労に求められる臨機応変や指示された言葉の裏にある意味まで考えて作業することは難しく、細かな指示がそのたびごとに必要である。

【活動目的】

・ 当初のねらい

- ① 実習の始まる時間（午前5時30分）が早く遅刻せず、安全に通勤できたかの確認を行う。
- ② 実習時間が4時間と短く、終了時間も午前9時30分と早い時間帯に終わることも含め、毎日実習担当教員と課題達成に向けての実習の振り返りを行う。
- ③ 実習終了後（午前9時30分～）の時間や休日を有意義に過ごす。

・ 実施期間

今回（9月3日～14日）は中央市場内にある「(株)丸漬」というお漬物屋さんで実習を行った。
9月3日(月)～17日(月) 実習期間とその後の休日を合わせた期間

・ 実施者

堀井雅男（教員）

・ 実施者と対象生徒の関係

実習担当教員

【活動内容と対象生徒の変化】

・ 対象生徒の事前の状況

通常の産業現場等体験実習では、中間観察時の短時間の生徒の様子でしか課題点の確認及び具体的指導が行なえず、反省会の時に企業から告げられる反省課題については、次の実習先での課題として持ち越していくこととなってしまうという現状がある。

対象生徒においては、やさしい性格でのんびりとしているので、これまでの雇用前提としない企業では社員さんから温かく見守られ、その場で厳しいことを指導されずに実習が終了してしまい、反省会で「自分から質問や報告が言える」「時間を見ながら能率的に作業する」「社員さんとのコミュニケーション」など、課題が明らかになるケースが多くみられた。

・活動の具体的内容

通勤時の安全確認と開始時間に無事到着できたかの確認のために「いまカエル」を使用し、家を出た時、会社に到着した時、帰宅した時の確認を行った。また、非常時に備え「Find iPhone」も使用し通勤経路や所在位置の確認に一時使用した。

毎日実習を終え帰宅してからは、対象生徒がその日の反省として記入した実習ノート「カメラ」で撮影し「メール」で実習担当教員へ送り、同時に「Face Time」で本人の顔を見ながら、その日の実習の振り返りを行い、即時的な評価を続けていった。

実習担当教員の中間観察では、対象生徒が作業している様子を「カメラ」でビデオ撮影し本人の課題点を明らかにし、保護者にも映像を見せることで課題に対して共通認識することができた。

帰宅後の時間・休日での過ごし方という点では、「太鼓の達人」「カメラ」「Safari」を使用し過ごすことがあったと報告を受けた。

・対象生徒の事後の変化

本人・保護者・学校(担任・実習担当教員など)が対象生徒の課題点をより鮮明に共通確認することができ、卒業後の進路決定に向けて、今後の実習には目標を意識して取り組むことができそうである。

余暇については、実習に専念しなければならないという思いやこれまでの家庭で様々な取組をなされていることもあり、大きな変化は見られなかった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・気づき

今回の実習は、早朝からの実習であったことや、市場での実習でということたくさんのトラックやフォークリフトが所狭しと行きかっているため、行き帰りを安全に通うことができるかが少し課題であったが、「いまカエル」や「Find iPhone」を使用することで、学校としては安心材料となった。

これまでの実習では、子どもに対して学校側からのタイムリーな指導・支援が行えず、実習中は家庭と実習先(会社)に任せる形になり、反省会で課題が明らかになり、後の祭りで終わっていた。しかし、今回の取組では本人との「Face Time」での会話のやりとりや「カメラ」機能を使い実習ノートを「メール」で毎日確認できたため、家庭と実習先と学校が連携をとりながら日々実習を勧めることができ、特に家庭と学校が課題を共通理解しながら同じ姿勢で対象生徒に対して課題達成のためのアドバイスやバックアップができ、実のある実習とすることができた。特に、家庭については映像によって作業している実際の姿を



「Face Time」中の様子

確認することができたことで、これまでの実習反省会で課題として挙げられた現状が鮮明になったと思われ、対象生徒に対して家庭からもかなりの励ましの言葉がもらえた。

今後、実習先も iPad 活用を一緒に願えれば、「Face Time」により課題が出てくれば即時に伝えていただくことで、学校も即時に対応ができるので、今回以上に実のある実習を進めていけると思われる。また、現場に行かないでもジョブコーチとして、企業に子どもに対する支援法についてアドバイスが学校に居ながらに行えるという可能性もうかがうことができた。このことは、本校の高等部生徒数に対して実習担当教員数が少なく、実習期間の調整を四苦八苦している現状からの打開策の一つとして、とても有効であると思われる。

9月10日	曜日	天候	くもり
実習先に着いた時刻: 5時25分	実習先を出た時刻: 9時22分		
今日の仕事の内容: キーリ(生)の入れ・タレ洗い・袋詰め・そりじ			
今日の仕事の反省 (あてはまるところに○をつける)			
	はい	まあまあ	いいえ
○遅刻はしなかったか:	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
○忘れ物はなかったか:	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
○あいさつや返事ができたか:	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
○ていねいに仕事をしたか:	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
○通んで仕事をしたか:	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今日の仕事を終わって思ったこと 初めにキーリの箱を運んで、タレ入れをしました。次に袋詰めを早くできて、タレ洗いを7タレしました。次に若林さんと袋詰めをしました。いつもより早くできました。休けいは社長さんが言ってくれました。その後ゆかのそりじをしました。今日は袋詰めが早くできてよかったと思います。明日もがんばります。			
家庭からの連絡欄 お世話様になります。この頃はどのような作業があるのでしょうか。かみで刈り終わる頃に話しておきます。休日は時間がありますが、自分から質問もはたいてい教えてもらいます。わからないところは、お電話でも構いません。有難いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。			
実習先印	キーリ(生)の入れ タレ洗い・キーリ袋詰め そりじ		

実習ノート

・エビデンス

対象生徒が行ってきたこれまでの実習では、計量及び袋詰めという定型反復の作業が主なもので、やることははっきりしていた。そのため、作業速度を意識させることも時間内に仕上げた袋の数を数えることで分かり、日々作業速度を意識して取組み、一定の成果を出し実習を終えていた。それゆえ、今回の実習に対しての目標は、「丁寧な言葉使い」「職場でのコミュニケーション（挨拶や返事）」が第一としていた。しかし、今回の実習では作業内容がこれまでと違い定型反復でなく、日々変化するものであった。職場開拓した初めての会社での実習であり、雇用前提に向けた実習ということで、一定の結果が求められる中、iPadを利用して実習担当教員から毎日即時的な実習の評価を行うなかで、目標設定を誤っていたことに気づき、第一に会社に求められる「仕事ができる」(内容・速度)という目標に速やかに軌道修正することができた。下記の実習ノートの記録でも本人・家庭での意識の変化が見られた。特に9/7の指導担当教員の間観察後からの作業速度に対する意識はかなり高くなった。

実習ノート（一日の感想）[抜粋]

- 9/3 樽が重くて大変だった。腰は痛くなかったし、大丈夫でした。疲れたけど頑張った。
- 5 段ボールを36個積むことができた。樽洗いもできた。いろいろな仕事できて良かった。
- 7 昨日より少し早くできた。質問は自分が本当に分からない時だけします。
(家庭からの連絡欄より) 与えられた仕事を黙々とこなすことが大切だと思いました。
- 8 段ボールを58箱運んだ。きゅうりの樽入れを2時間で9樽した。昨日より早くできた。
(家庭からの連絡欄より) スピードがどれほど上がったか分かりませんが、気持ちとしてあがったと思います。
- 10 いつもより袋詰めが早くなって良かったと思います。
(家庭からの連絡欄より) 作業の内容の流れが分かってきたようで、家で話しております。

中間観察

・その他のエピソード

毎日の振り返りの中で使用した「Face Time」では、操作法も含め見守りのために母親が毎回横におられたので、途中からは母親も「Face Time」に参加しながら一日の振り返りができ、対象生徒の今の課題を共通理解して、学校と同じ方向で子どもをバックアップしてもらうことができた。